

(様式5)

令和7年度 指定管理者年度評価シート

1 基本情報

施設名称	大阪市立長谷川羽曳野学園（児童心理治療施設）
施設所管課・担当	こども青少年局こども家庭課要保護児童グループ
条例上の設置目的	児童福祉法第43条の2に基づき児童心理治療施設を設置するもの
業務の概要	児童養護施設の管理運営及び児童心理治療施設の管理運営
成果指標	①退所児童の家庭復帰後半年間の現況把握率 ②苦情解決第三者委員会による苦情解決率
目標	①100% ②100%
指定管理者名	（社福）みおつくし福祉会
指定期間	平成31年4月1日～令和9年3月31日（8年間）
評価対象期間	令和7年度分

2 管理運営の成果・実績

成果指標	①	②
数値目標	100%	-
年度実績	100%	-
達成率	100%	-

利用状況（各年度3月31日時点）

	当年度	前年度	前年度比
利用人数	38	37	1
稼働率	95.0%	92.5%	2.5%

3 収支状況

収入		当年度	前年度	差異（実績－計画）	主な要因
業務代行料	実績	364,185,690	338,256,673	18,779,690	入所児童数は同じだが、計画は本市算定による指定管理代行料(措置費)の予算額であるため
	計画	345,406,000	340,023,000		
利用料金収入	実績	0	0	0	
	計画	0	0		
その他収入 （自主事業収入）	実績	1,435,714	1,836,292	157,714	
	計画	1,278,000	1,596,000		
合計	実績	365,621,404	340,092,965	18,937,404	入所児童数は同じだが、計画は本市算定による指定管理代行料(措置費)の予算額であるため
	計画	346,684,000	341,619,000		

支出		当年度	前年度	差異（実績－計画）	主な要因
人件費	実績	260,163,278	233,579,624	260,163,278	
	計画				
管理運営費	実績	73,131,368	72,658,028	73,131,368	
	計画				
その他事業費 （自主事業支出）	実績	0	0	0	
	計画				
合計	実績	333,294,646	306,237,652	333,294,646	
	計画	0	0		

4 管理運営状況の評価

(1) 成果指標の目標達成状況

評価項目	市の評価	特記事項
①	B	自立支援担当職員を配置し、適切に対応されたことにより、目標を達成している。
②	-	対象件数はなかった。

(2) 市費の縮減

市費縮減に係る取組状況	市の評価	特記事項
児童入所施設等措置費の基準に基づき業務代行料を支出しており、市費縮減については不可能	B	

(3) 管理運営の履行状況

評価項目	市の評価	特記事項
施設の設置目的の達成及びサービス向上		
施設の管理運営	A	施設の老朽化が進んでいるが、日常的な点検整備を欠かさないことで、入所者の安全に配慮されており、予防保全にも十分取り組んでいる。 併せて、措置費における加算職員等、処遇向上のための職員加配に積極的に取り組んでいる点は評価できる。
施設の維持管理		
職員の配置状況		
安全管理		
市民サービスの向上	A	平成31年度に直営から指定管理制度へ移行した施設であり、初年度は児童の入所実績も低調であったが、積極的な受入れを推進し稼働率も向上している。
利用者満足度調査		
サービス向上策の実施		
事業計画の実施状況	B	児童入所施設運営として適切かつ良好である。
事業の実施状況		
施設の有効活用	B	同種別の施設や、同圏域内施設との連携を通じて職員のスキルアップにや新たな情報確保に努めるとともに、地域子ども会への参画など果たすべき役割を担っている。
地域との連携		
他施設との連携		
社会的責任・法令遵守	B	適切かつ良好である。
勤務労働条件の確保		
個人情報保護対策		
環境への配慮		
就職困難者の雇用		

5 外部専門家意見

・心理治療施設としての専門性は着実に維持されている。全児童対象の週1回個別セラピーに加え、性教育委員会「はぐくみの会」による発達段階別プログラム、CVPPP等の外部研修受講は、被虐待児童の心身の安定と権利擁護に資する取組と評価できる。令和7年度からのアドボケイト導入は、児童の意見表明権保障の観点から積極的に評価すべき進展である。成果指標（現況把握率100％）や実地調査の「×」0件の実績は、養育環境の安定性を裏付ける。今後も、老朽化への適切な対応と、チーム支援の更なる深化を期待する。

被虐待児入所の増加や家庭での養育が非常に難しい家族のこどもたちを受け入れて奮闘してこられた実績が評価できる。社会的養育関係の予算は、近年充実されてきており、措置費単価の改定等により経営的に安定している施設が散見される。その分、社会福祉充実残高を活用して、社会的養育体制の将来構想にある「地域分散化」に備えて資金を確保する施設も増えてきている。指定管理施設ということだが、ぜひ将来構想等のVisionを固められて、今後この事業がどうあるべきかを行政と事業者と共有して頂ければと思う。

6 総合評価

評価項目	評価	所見
成果指標の目標達成	B	目標達成している。
市費の縮減	B	児童入所施設措置費を運営財源としているため、市費縮減は不可能である。
施設の設置目的の達成及びサービスの向上 施設の管理運営 市民サービスの向上 事業計画 施設の有効活用	A	児童を積極的に受け入れ、関係機関との連携を図るとともに、職員の知識・技術の研鑽も積極的に進めている。今後は、さらなる支援の深化を期待したい。
社会的責任・市の施策との整合	B	適切かつ良好である。
総合評価	B	